



宮崎の父

川越進

一八七三年に
宮崎県に
マング

宮崎県郷土先覚者シリーズ②

マング / 太神美香

県の職員として
勤めていたが…

鹿兒島
併合

小倉様！

不合理が
あるのか!!

残されて
いた

冷遇された
ままだ

戦後
学校は休校のまま
鹿兒島と比べ
日向国の議員も
役場も圧倒的に
少ない…

およそ半年もの間
続けられた
西南戦争

議員は三分の一以下
宮崎出身の
冷遇されたままだ

マンガ宮崎県郷土先覚者シリーズ② 宮崎の父 川越進

令和3年3月 発行

発行 / 宮崎県

〒880-8501 宮崎県宮崎市橘通東2丁目10番1号
宮崎県 総合政策部 みやざき文化振興課
TEL : 0985-26-7117 FAX : 0985-32-0111

協力 / 宮崎市教育委員会文化財課

新名一仁 (志学館大学非常勤講師)

マンガ / 太神美香

制作 / (株)梓書院

〒812-0044 福岡県福岡市博多区千代3丁目2番1号
TEL : 092-643-7075 FAX : 092-643-7095

明治時代
宮崎県の名が
地図から消えていたことを
ご存知だろうか？

廃藩置県から
五年後の
一八七六年

宮崎県は
鹿児島県に
併合された

その翌年には
西南戦争が
勃発し

主戦場となった
日向国は
荒れ果てた

戦争後も
学校は休校のまま

鹿児島県の中でも
日向国は議員も
役場も圧倒的に
少ない！

こんな
不合理が
あるものか!!

* 廃藩置県前は現在の宮崎県域と鹿児島県の一部は日向国と呼ばれた。

みやざきけんみんの
宮崎県民の
ほこり
誇りと
アイデンティティを

と
もと
取り戻すのだ!!



みやざき
「宮崎の父」
ちち

しよだい
初代宮崎県会
*
議長
かわこえすすむ
川越進

* 県会…現在の県議会

じつげんこんなん
実現困難とされた
みやざきけんどくりつ
宮崎県独立を

かれ
彼は
いかにして
じつげん
実現したのか!?

江戸時代
日向国は



小藩が多数に
分かれている
地域であった

一八四八年に
飢肥藩の
下級藩士の子
として生まれた
川越進は



安井滄洲・息軒
父子が開いた
明教堂で学び
21歳で家督を
継いで清武の
役所に務める

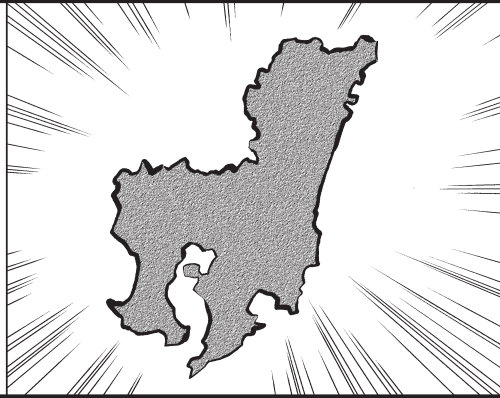
一八七三年に
宮崎県が設置
されてからは

県の職員として
勤めていたが：

鹿児島県に
併合!?

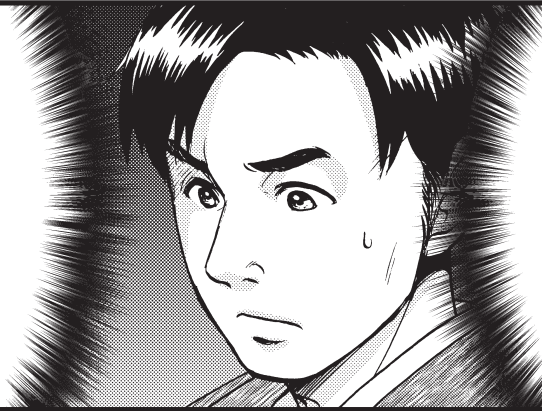
川越進 (28歳)

みやざきけんせつち
宮崎県設置から
わずか三年後の
一八七六年



めいじせいふ
明治政府による
けんの統廃合政策の
ひとつとして
みやざきけん
宮崎県は鹿児島県に
併合されてしまう

たしかに小藩が多く
県としての
まとまりが欠けて
いたかもしれないが



われわれひつがのくに
我々日向国と
さつまのくに おおすみのくに
薩摩国や大隅国とでは
あまりにも風土や人情が
違つではないか

かわぐえすむへいごうご
川越進は併合後
鹿児島県の職員に
なったが

せいなんせんそう
西南戦争が
おきると
けんしやくいん
県職員を辞め
きょうとで
郷土で
きようちんぎょう
養蚕業を
いとないでいた
宮んでいた



せいなんせんそう
西南戦争
とは

明治新政府に
不満を持つ士族たちの
反乱である

西郷隆盛を盟主とした
西郷軍には
日向国の旧藩士たちも
多数参加し

そこには
川越進の姿も
あった



西郷軍が
熊本で敗れ
ここ宮崎に本営が
移されることになった



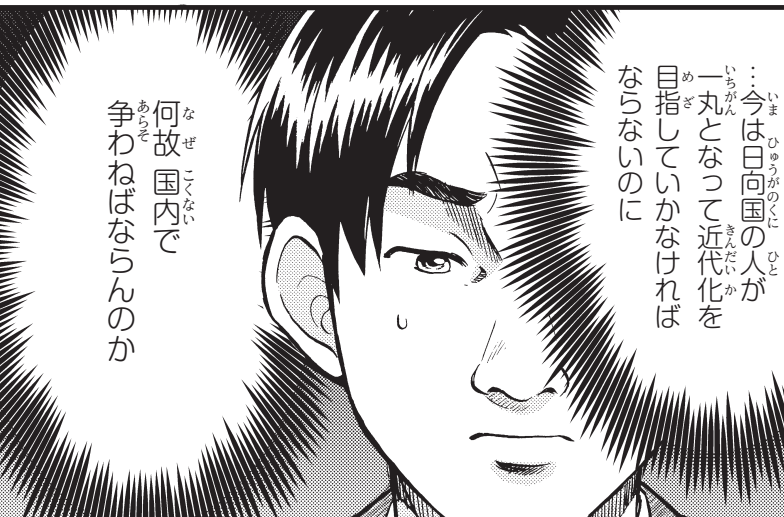
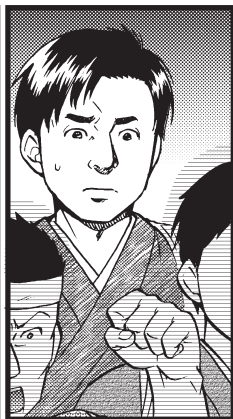
我々飢肥隊も
命を賭けて
この地で戦おうぞ!

小倉処平

*現在の宮崎市広島一丁目に本営が置かれた。

…今は日向国の人
一丸となつて近代化を
目指していかなければ
ならないのに

なぜ国内で
争わねばならんのか





官軍の動向を
探るため私が
大分に探偵して
まいります

それは心強い！
危険だが
よろしく頼んだぞ！



小倉様！

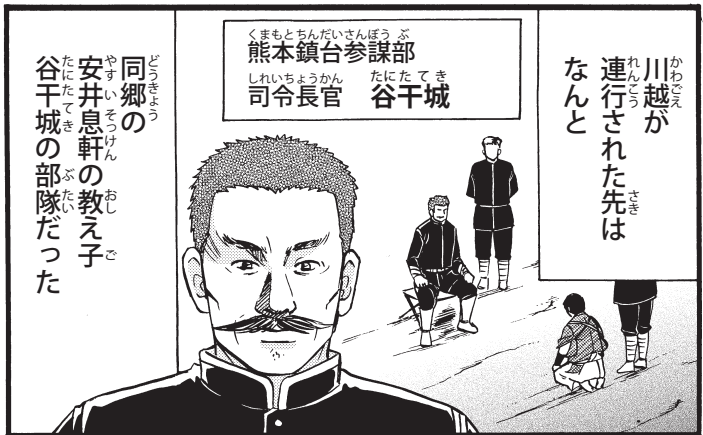


探偵と称して
延岡から
大分へ向かった
川越は

志を遂げるため
官軍に投降



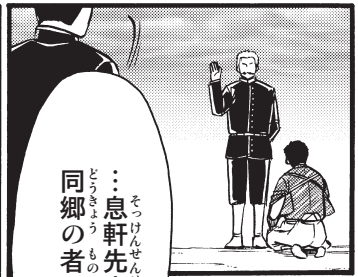
翌日



熊本鎮台参謀部
司令長官 谷干城

同郷の
安井息軒の教え子
谷干城の部隊だった

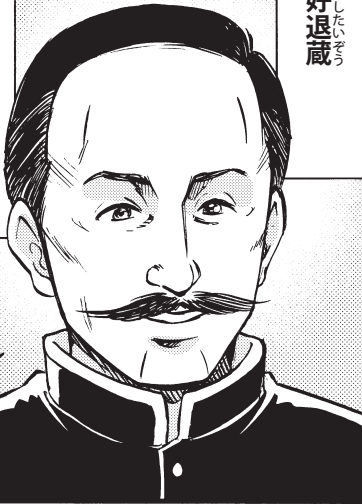
川越が
連行された先は
なんと



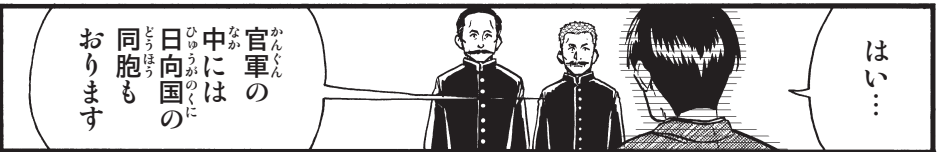
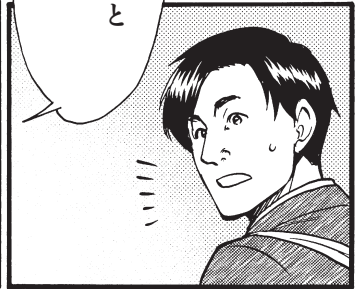
…息軒先生と
同郷の者か

三好退蔵

高鍋藩出身で
安井息軒の
「三計塾」で学び
司法省の判事を
務めていた



戦は
嫌いか？



はい…

官軍の
中には
日向国の
同胞も
おります



…そうか…



どうしても…
同胞同士が血を
流しあい

郷土が
戦争の被害を
受ける様を見て
おられぬのです…



息軒先生の
教えを引き継ぐ
同胞として
ほうつておけぬ

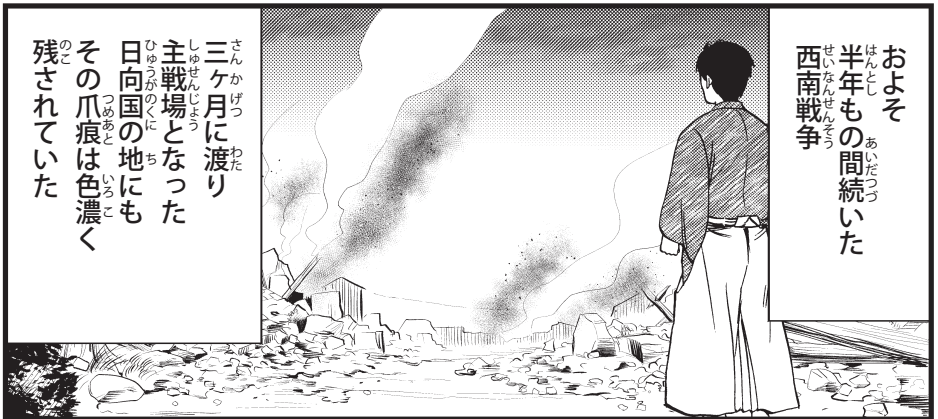
何とか
してやろう



ありがとうございます
ございます…!!

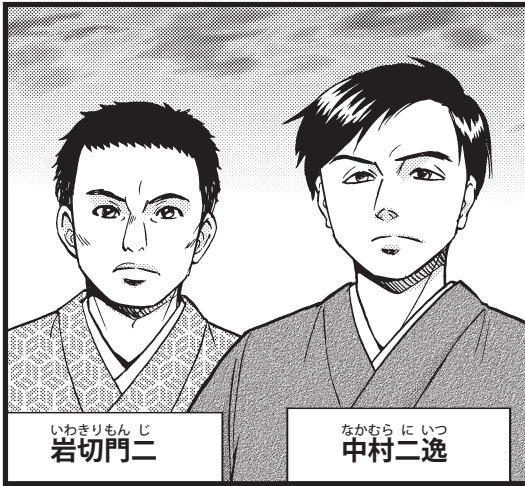
安井息軒の
教え子たちとの
出会いにより
救われた川越

この縁は後の
分県運動でも
活かされる
こととなる



およそ
半年もの間続いた
西南戦争

三ヶ月に渡り
主戦場となった
日向国の地にも
その爪痕は色濃く
残されていた



いわきりもんじ
岩切門二

なかむらにいつ
中村二逸

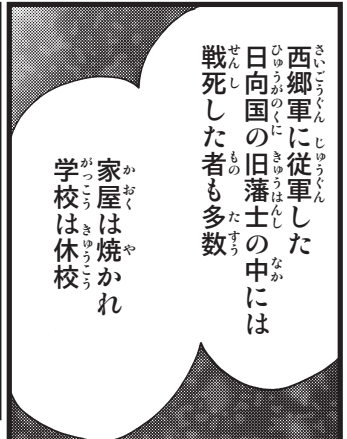


…ひどい
ありさま
だな



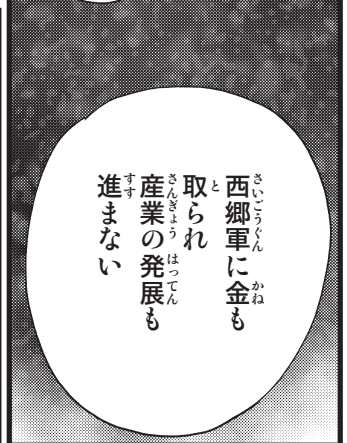
薩摩や大隅は
発展しているのに
日向国の復興は
後回しになっている

県会でも日向国出身の
議員は三分の一以下…
これでは日向国の発展は
なかなか進まない



西郷軍に従軍した
日向国の旧藩士の中には
戦死した者も多数

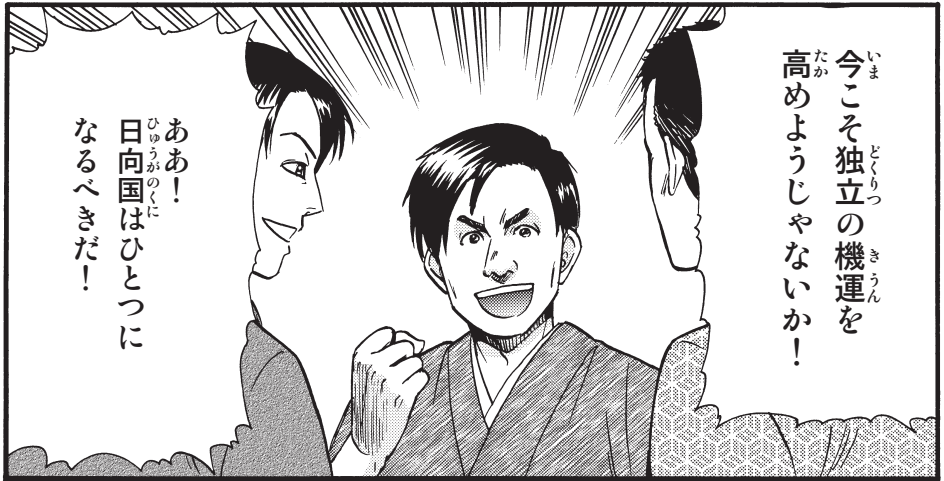
家屋は焼かれ
学校は休校



西郷軍に金も
取られ
産業の発展も
進まない



やはり日向国は
鹿児島県から
独立すべきなのだ！



いま
こそ独立の機運を
高めようじゃないか！

ああ！
日向国はひとつに
なるべきだ！



一八八〇年
川越進は
盟友中村二逸や
岩切門二らとともに
宮崎分県を目標し

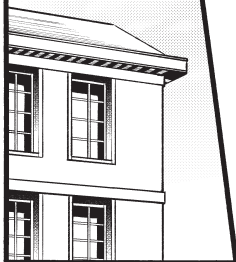
鹿児島県初の
県会議員選挙に
立候補

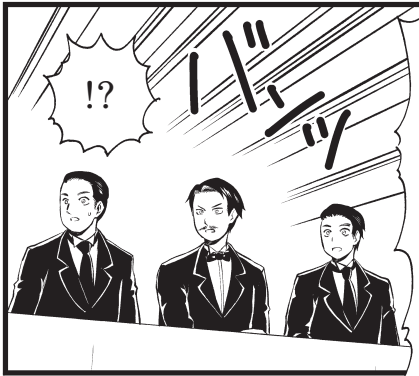


32歳の若さで
議員に当選し

分県運動の
リーダーとして
駆け回る
こととなる

日向国内

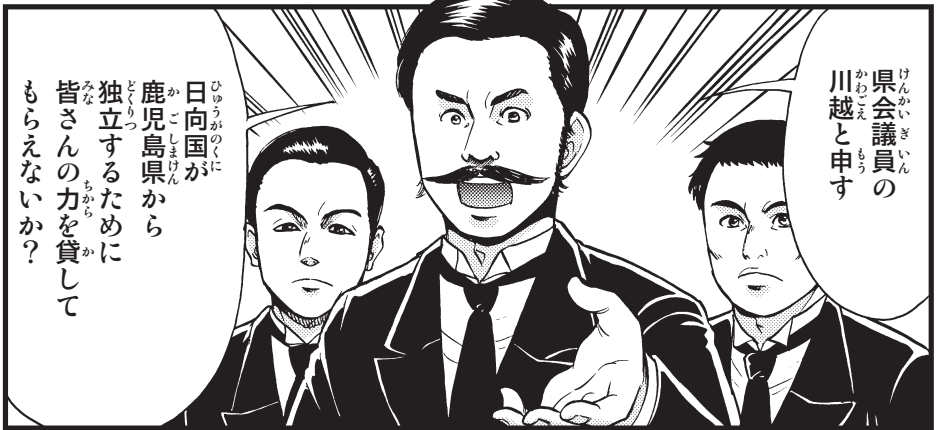




失礼する！



（市長・地租改正総代人らの集会）



県会議員の
川越と申す

日向国が
鹿児島県から
独立するために
皆さんの力を貸して
もらえないか？



川越は各地で
熱弁をふるい
各郡村ごとに

「日向分県
の儀
嘆願書」を作成

江戸時代
小さな藩にわかれて
いた名残で
ばらばらだった
各地の人々を
「ひとつの宮崎」で
目覚めさせ

分県を
仲間を
増やしていった

そして――

議員殿、これが
各地から集めた
嘆願書です

県会で審議を
お願いします

ああ……

ところが――

嘆願書が
届いてない?!

さては
あの議員が……!

……もうよい

なにか事情が
あったのかも
しれない

いずれにしても
我々の力が
足りなかったのだ

*現在の県知事



思うように
分県運動は
進まなかった

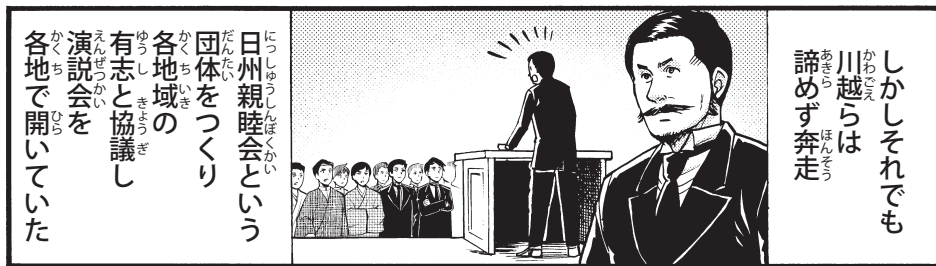
その後
鹿兒島県令
渡辺千秋が
分県に反対し



川越…

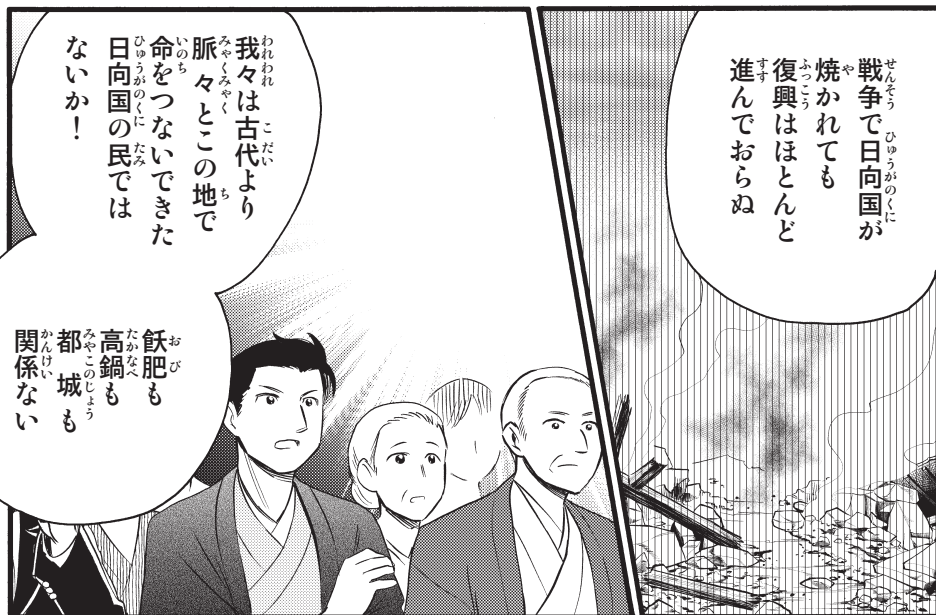
さあ！
気を
取り直して
演説にでも
いこう！

ガタ



しかしそれでも
川越らは
諦めず奔走

日州親睦会という
団体をつくり
各地域の
有志と協議し
演説会を
各地で開いていた



戦争で日向国が
焼かれても
復興はほとんど
進んでおらぬ

我々は古代より
脈々とこの地で
命をつないできた
日向国の民では
ないか！

飢肥も
高鍋も
都城も
関係ない

どうにか
我々で
分県への糸口を
つかもうぞ！

「日向国置県
請願委員代表」と
なった川越と
藤田哲蔵は
政府要所に
働きかけるため

東京にいる
郷土出身の
協力者を
訪ねてまわった



お久しぶりで
ございます！

そして

もと げんろういん ぎかん
元・元老院議員
あきつき たねたつ
秋月種樹

おおくしやう かんりやう
大蔵省官僚
つづみながあき
堤長発

りっぱ
な
立派に
なられたな
かわこえとの
川越殿

みよしたいぞう
三好退蔵

とも たかべしめつしん
共に高鍋出身
さんけいしゆくせい
三計塾生である

分県運動には
私も協力したい

聞けば志布志地方は
鹿児島県残留を
希望しているようだ

熱心なもの
よいが広く
意見をきき
時に柔軟に
考えることも
大事じゃぞ

はい

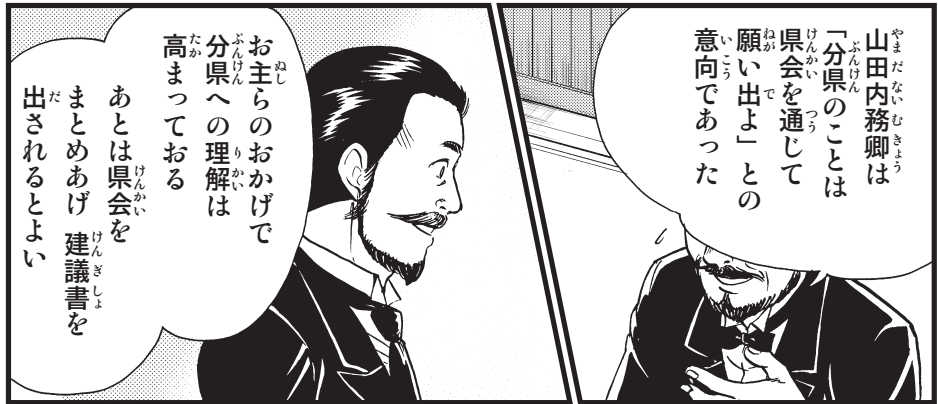
この後も
内務卿の
山田顕義や
参議の
山県有朋らを
訪ねた川越ら

そこで以前は
分県に反対だった
鹿児島県会議長の
野村綱からも
協力を
得ることになる

以前は反対して
申し訳ない

いえ：
何もおっしゃい
ますな

今は
こうして協力して
くださっているの
ですから



やまだないむきょう
山田内務卿は
「分県ぶんけんのことは
県会けんかいを通じて
願ねがい出でよ」との
意向いこうであった

お主ぬしらのおかげで
分県ぶんけんへの理解りかいは
高たかまっております
あとは県会けんかいを
まとめあげ 建議書けんぎしよを
出だされるとよい



ありがとう
ございます！

かならず ぎあんに
必ず ぎあんに
議案ぎあんを
通とおしてみせます！

さんかげつわた
三ヶ月に渡る
上京じやうきやうを終え
帰郷ききやうした川越かわごえらは

けんかい
県会けんかいに
ひゆうかのくにぶんけん
「日ひ向むか国こく分ぶん県けん」
建議案けんぎあん」を提出ていしゆつ



ぎちようはんたい
議長ぎちやうの反対はんたいにより
いちどとあ
一度いちど通とおった議案ぎあんが
くつかえ
覆あきつされてしまうが
諦あきらめない川越かわごえに

またもや
さんけいじゆくりまうえん
三計塾さんけいじゆの良縁りやうえんが
みかた
味方みかたする

なるほど…

よつ しゆんべい
四屋よつ 俊平しゆんべい

ふじたてつぞう
藤田ふじた 哲蔵てつぞう

確かに日向国の分県は国家経済にも大きな利益となりそうだ

そのことを国の関係各所に話してみよう

ありがとうございます！

参事院 議員

わたなべのほり 渡辺 昇

渡辺昇は山県有朋の命で地方の民情を把握するために国から派遣されていた

彼もまた三計塾の卒業生であった

一八八三年三月

川越は鹿児島県会の議長に就任していた

投票箱

それでは…「日向国分県建議案」の採決をとる

ゴッ…



賛成 三十九名
反対 二名
よって

本案は
可決!

日向国選出の
議員が少ない中
圧倒的多数の
賛成を得て
可決された
分県案

いよいよ
宮崎分県
じゃー!!

これは
川越らの努力が
いかに大きかったかを
物語っている

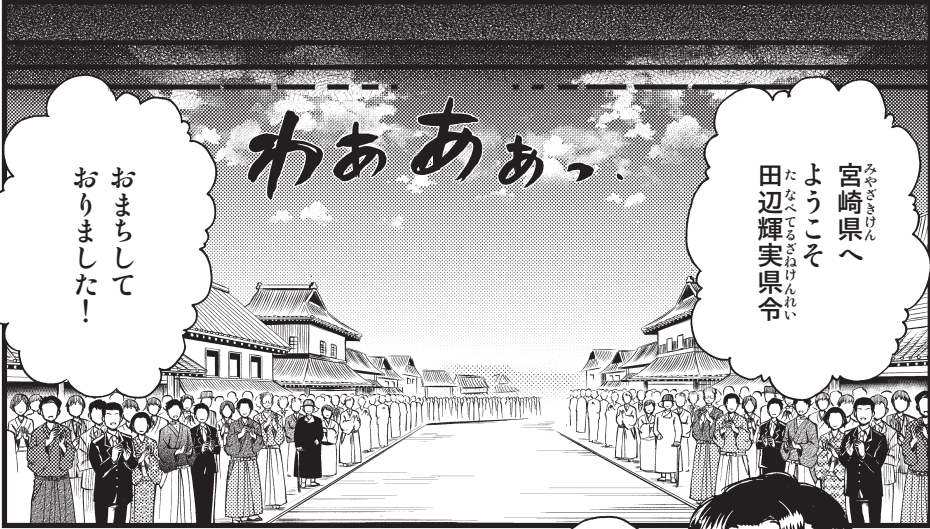


*日向国のうち、志布志・大崎・松山は鹿児島県に残った

その後
宮崎県の
分県再置が
通達され

晴れて
日向国は
宮崎県として
再置

現在の
宮崎県の
原型が
誕生した



宮崎県へ
ようこそ
田辺輝実県令

わあああ

おまちして
おりました！



これは…！



田辺県令！

この日を
心待ちに
しておりました！

いやはや…
この熱気には
驚きました



みやざきけんはってん
宮崎県発展の
ための具体案を
ようい
用意しています



ではさつそく
これを…



はは！
これはますます
きをひきしめ
ねばな！

ともに良い
みやざきけん
宮崎県を築いて
いきましよう！



ごうして

いっど
一度は
き
消えた宮崎県は
ふたたび
再び県として
かえ
返り咲いた



そしてそこには
かつてよりも

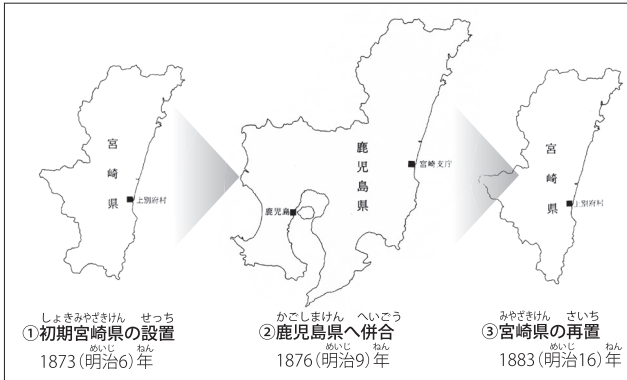
もつと絆が
強くなった
「宮崎県人」の
姿があった

川越進らが
奮い立たせた
宮崎県人の誇りと
アイデンティティは

いまも脈々と
受けつがれている



宮崎の父・川越進をめぐって



宮崎県の変遷

江戸時代、延岡藩・高鍋藩・飫肥藩・薩摩藩・佐土原藩と、いくつもの藩が存在した日向国。明治維新直後は、美々津県と都城県に別れ、その後宮崎県が発足するも、わずか3年で鹿児島県に併合と、目まぐるしい変遷を辿ります。その背景には、いくつもの藩が存在した名残りで、日向国としてまとまりきれていない実情がありました。そんななか、各地で熱弁を振るい、機運を高めて宮崎県分県を勝ち取った川越進の周りには、彼の志を支援するたくさんの方々の同志たちがいました。彼らの支援なくして分県の実現は困難だったことでしょう。西南戦争で荒れ果ててしまった郷里に心を痛める同志たちの協力に

よって、皆で勝ち取った宮崎県分県だったと言えます。

戦争被害が大きかった日向国

西南戦争の主戦場といえ、熊本県の田原坂が有名です。しかし、戦争が中盤になると、熊本で敗れた西郷隆盛本隊は、人吉から宮崎に入り、北へ敗走し、延岡の可愛岳を経て鹿児島に向かって南下するというルートを進るため、およそ3ヶ月にわたって日向国のほとんどが戦場となっています。具体的には、6月に人吉を官軍が占領してから、飯野↓紙屋↓宮崎・佐土原↓高鍋↓美々津・細島↓延岡↓和田越↓可愛岳↓銀鏡↓小林↓鹿児島へ、というルートを進りました。

また大正元年発行の『薩南血涙史』によると、宮崎県内全体の戦没者は計969人と伝わっています。

川越進を支えた同志たち

分県運動は、川越進を中心に、同志たちの見事な連携、役割分担によって成し遂げられたといっても過言ではありません。ここでは、川越進を支えた同志たちを紹介いたします。

〈中村二逸〉 1852〜1921年

上別府村（現在の宮崎市中心部）出身の商人・政治家。現在の広島町で鉄砲店を経営。分県運動では、私財をなげうち、財政面で川越進を支え続けた。1891（明治24）年には、川越進の三男・秀一を養子に迎えている。のちに宮崎町会議員、宮崎県議会議員を経て、1897（明治30）年9月から1899（明治32）年5月まで、第3代宮崎町長をつとめた。

〈岩切門二〉 1860〜1896年

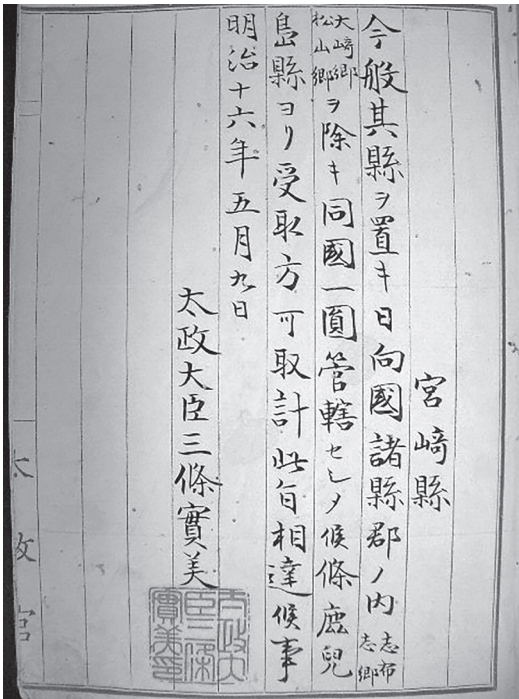
柏原村（現在の宮崎市大字柏原）出身の政治家、ジャーナリスト。慶応義塾で法制を学んで帰郷。分県運動に身を投じ、世論喚起のため各地で開催された演説会の弁士として活躍。のちに、宮崎新報社を創立して主筆として活躍。1894（明治27）年には第3回衆議院議員総選挙で当選し、一期つとめた。

私財をなげうって行われた活動

川越進たちが繰り広げた分県運動のほとんどは、有志たちの私財を使って行われました。宮崎で商売を行っていた中村二逸も、金銭面での積極的な支援を行っただけと言われて

います。

川越進は1912（大正元）年に政界を引退しますが、国政での活躍や県の発展の推進のためさらに私財を投じたため、引退時には財産のほとんどを失ったそうです。「政治家などにはなるものではない」と子孫に言い残したというエピソードが残っています。



「再置県達」

（宮崎県文書センター蔵「地方部関係諸令達通牒 明治21年」）
1882（明治15）年秋、内務省は宮崎を含む4県の設置を詮議し、諸県郡志布志郷・大崎郷・松山郷を除く日向国をもって「宮崎県」を置く案ができる。同案は、同年11月に参事院で審査され、翌1883（明治16）年5月9日、政府は太政大臣三條實美の名で、宮崎県設置を布告した。

川越 進 略年譜

年号	年齢	略歴	国内の動向
1848	0	飢肥藩領宮崎郡加納村にて誕生。	
1853	5		ペリー浦賀に来航。
1854	6	郷校明教堂に入る。	日米和親条約締結。
1867	19		大政奉還、王政復古の大号令。
1869	21	川越家を継ぎ、清武会所に出仕。	版籍奉還、藩主は知事となる。
1871	23		廃藩置県。現在の宮崎市南部は、飢肥県ついで都城県となる。
1872	24	都城県第 47 区（恒久・城ヶ崎など）の戸長となる。	庄屋・名主を廃止し、戸長・副戸長を置く。
1873	25	宮崎県の官吏となる。	美々津県と都城県の一部を合併し、宮崎県を設置。
1874	26		自由民権運動が始まる。
1876	28	鹿児島県の官吏となる。	宮崎県を廃止し、鹿児島県に併合。
1877	29	鹿児島県を依願免官。他の旧飢肥藩士らとともに西郷軍に加わる。	西南戦争勃発。9 月、西郷隆盛自刃。
1878	30	鹿児島県宮崎支庁に勤務するも、辞職。	
1880	32	鹿児島県会議員に当選。鹿児島にて「国会期成同盟」結成。	国会期成同盟第 2 回大会開催。各地で私擬憲法が起草される。
1881	33	鹿児島県会副議長に就任。「分県ノ儀ニ付建言書御執達願」を鹿児島県令・渡邊千秋に提出。藤田哲蔵とともに上京し、中央政府の要人らへの請願・陳情を行う。	明治 23 年国会開設の勅諭出る。自由党結成。
1882	34	「日向国分県建議案」を提案するが、渡邊千秋県令の議会工作によって廃案とされてしまう。	参事院議官・渡辺昇が巡察視として九州に派遣された際、藤田哲蔵・四屋俊平ら分県運動派より陳情を受ける。
1883	35	鹿児島県会議長に就任。「鹿児島県下日向国分離ノ建議」が圧倒的多数で可決される。宮崎県再置。宮崎県会議員に当選し、議長に就任。	
1884	36	県会議員を辞し、宮崎郡長となる。	
1885	37		内閣制度開始。
1889	41		町村制施行。宮崎町・大宮村・大淀村・生目村・住吉村・櫛村・青島村・木花村・赤江村などが誕生。
1890	42	宮崎郡長を依願退職。第 1 回衆議院議員選挙で当選。	
1892	44	第 2 回衆議院議員選挙で当選。	
1894	46	第 4 回衆議院議員選挙で当選。	
1903	55	第 8 回衆議院議員選挙で当選。	
1908	60	第 9 回衆議院議員選挙で当選。	
1910	62	居を東京に移す。	
1912	64	任期満了で議員を引退。	
1914	66	宮崎で病没。	